

シンガポールの最新食品事情を学ぶ

山梨県食品工業団地協同組合青年部(金井芳朗部長)は、青年部発足10周年を記念して、7月9日から12日までシンガポールのビジネス事情を知るための視察研修を実施した。

日本アシストシンガポールは、日本企業がシンガポールを活用して周辺の東南アジア市場でビジネスを拡大していくために、最適なソリューションを迅速に提供している。また、関連会社のシンガポール最大の日系レンタルオフィスとして開業4年で累計250社に利用されているクロスコープも視察、様々な経歴の持ち主である関泰二代表取締役から現地のネットワーク、最新情報、商品やサービスの提供及び商品企画などビジネスプロデュース会社の手法について説明を受けた。

シンガポール西部では、最大規模のショッピングセンター(総床面積約2万坪、テナント数約450店

舗、来場者数500万~700万人/月)『ジュロン・ポイント』を見学。このショッピングセンターの一角にWAttention Plazaがあり、その中に日本食レストラン街、日本製品のアンテナショップ街があるが、地方公共団体、企業等が物産展を開催するなど盛況であった。自社製品をPRしたり、感触を得るには最良の場所と感じた。

伊勢丹ジュロンイーストでは、シャトレーゼの店舗を始め、日本製品の展示、レイアウト等を見学した。物価が高いため日本の3倍の売価にもかかわらず、消費者に受け入れられているのは、日本製品に対する安全・安心感が浸透しているからであるという。

シンガポール日本食店舗ではNo.1のシェアを持つRE&S社では、専門的な自動化技術と食品研究室を擁した近代的なセントラルキッチン視察。日本食にこだわりながら、消費者ニーズを的確に捉えた商



品開発とISO22000による徹底した衛生管理、生産・配送の効率化等による消費者の顧客満足度アップなど、発展を続けている企業の極意を関口修司副社長から学んだ。

日本の人口が減少し国内マーケットが縮小する中、人口が増加し経済発展を続ける東南アジアのマーケットへの進出による中小企業の生き残り策の学習と海外の人脈とのネットワークができた意義のある海外研修となった。